

母校はあなたのホームグラウンドであり、校友会・歯学会はあなたのアイデンティティです

第49回全日本歯科学生総合体育大会開催さる

Tokyo



Niigata



第49回全日本歯科学生総合体育大会は、岡山大学が事務主管のもと、昨年12月にラグビーフットボール、今年3月にアメリカンフットボールとスキースキの冬期3部門が終了し、スキー部門では新潟生命歯学部が第3位、生命歯学部が第4位と好成績での入賞を果たしました。夏期部門は8月1日に開会式が岡山市で開催され、23部門の熱戦が8月10日の閉会式の前日まで繰り広げられました。

今年の夏は、特に全国的な猛暑が続き、部門によっては熱中症で搬送される学生も出るなど、今後の運営に大きな課題を残す大会となりました。

私ども教務部・学生部の教職員は今年も手分けをして、各地で活躍する学生の応援に参りましたが、それぞれの地で、熱い戦いに挑む学生の姿には、日頃とは違った逞しさ、力強さを感じました。競技で得られた様々な経験や思いを今後の学生生活にぜひ生かしてほしいと願っています。

毎年、学生のためにボランティアで、熱意溢れるご指導をいただいているクラブ顧問の先生、監督、コーチのOBの先生に心より感謝、御礼を申し上げます。勉学と部活動の両立が厳しくなっている環境で、学生達が思う存分に練習や競技に打ち込めるのも、多くの教職員、校友会の先生のご協力のおかげでございます。まだまだ未熟さを感じる学生達ですが、将来の歯科界の担い手となりうる学生です。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

生命歯学部 学生部長 菊池憲一郎



(2面に続く)

校友会からのご挨拶

文武両道とは、文学と武道である。
温故知新とは、故きを訪ね、
新しきを知ることである。



日本歯科大学校友会副会長 渡邊儀一郎

日本歯科大学は、創立111周年の歴史を刻み、新たにスタート！

私の故郷は岡山県倉敷市であり、出身校は県立倉敷天城高校である。

県立高校としては珍しい中高一環の教育高校で、文武両道の精神を謳っている。天城と書いて伊豆では、「あまぎ」と読み、我が高校は「あまぎ」である。くしくも日本歯科大学と同じく卒業すると、校友会に所属し、昨年(平成28年)創立110周年を迎えた。

本年度、歯学体は岡山を主会場に開催される。学生諸君の健闘を心より祈る。許される時間があるなら、故き良き歴史を感じるために、倉敷美観地区を旅し、大原美術館の絵画を鑑賞することを薦める。

日本歯科大学は、英名では、Nippon Dental Universityと記し、「にっぽん」と発音し、日本歯科大学校歌においては、「にほん」と声に出して高らかに謳っている。「にほん」「にっぽん」読み方はいずれにしる、世界に冠たる日本歯科大学での教育と学問、部(武)活動は、将来歩む歯科医師への道に繋がる。

(1面からの続き)

第49回全日本歯科学学生総合体育大会

新潟生命歯学部 結果報告

今年度の第49回歯学部体育大会は、岡山大学が主幹となって西日本の会場を中心にして開催されました。新潟生命歯学部からは13部門に166名の学生が参加し、成績は前年度から順位がやや上昇して22位でした。数年前まで200名以上あった頃と比較すると、遠隔地開催のため参加166名とやや減少する形となりましたが、1年生から積極的に参加する部門もありました。また、不参加部門や参考競技となった部門もあり団体部門での優勝はありませんでしたが、個人部門で優秀な成績を取めた学生がいました。以下に主な個人成績優秀者を挙げます。

陸上 走り高跳び 男子1位 新妻智憲

陸上 三段跳び 男子1位 長谷川 令

来年度以降に向けては、グラウンド整備も完了しているため学生に積極的な参加を呼びかけるなど、学生部としても部活動のさらなる活発化に向けて対策を講じていきたいと思います。

新潟生命歯学部 学生部長 小松崎 明



《総合成績一覧表》

優勝 愛知学院大学歯学部	152.25点	∴	
準優勝 九州歯科大学	130.5点	21位 大阪大学歯学部	18点
3位 日本大学歯学部	120.75点	22位 日本歯科大学新潟生命歯学部	17.75点
4位 大阪歯科大学	100点	23位 岡山大学歯学部	15点
5位 明海大学歯学部	99点	24位 新潟大学歯学部	12点
6位 東京歯科大学	98.75点	25位 長崎大学歯学部	10.75点
7位 日本歯科大学生命歯学部	98点	26位 北海道医療大学歯学部	7点
8位 昭和大学歯学部	83.75点	27位 神奈川歯科大学	4点
9位 日本大学松戸歯学部	80.5点	28位 奥羽大学歯学部	2.5点
10位 朝日大学歯学部	62点	29位 九州大学歯学部	1.75点

生命歯学部 平成29年度夏期歯学体結団式開催



平成29年6月27日(火)午後6時から生命歯学部本館1階のメモリアルホールにて夏期歯学体結団式が開催されました。開会式では、羽村学部長、菊池学生部長、沼部教務部長、佐藤校友会常務理事から歯学体に向けて学生に力強いエールを送りました。そして誠和会による校歌斉唱と夏期歯学体の健闘を願い運動部に力強いエールを送り結団式は終了しました。

第46回浜浦祭生き生きと開催!!

一 の度、第46回浜浦祭は6月10日(土)、11日(日)の2日に渡って無事開催することができました。今年のテーマは「Next Dream with U-NDU-」です。歯科医師や歯科衛生士になると同じ夢を持った仲間達と未来へと繋がる一歩を作りたい、という想いを込め、このテーマを設定しました。

1日目の午前中はぐずついた天気であったものの、その後は晴れて、開会式以外のイベントは全て野外特設ステージにて開催することができました。模擬店、屋内展示、学生会主催イベント、無料歯科健診や芸能人を招いてのお笑いライブなどが催され、普段の学校生活とは違った学生たちの生き生きとした姿が見受けられました。これを機に、団結した心を国試合格という次の一歩へと繋がられればと感じます。



最後となりましたが、今回の浜浦祭を開催するにあたりご協力くださった諸先生方、校友会並びに地域の皆様、その他浜浦祭の成功へと尽力していただいた全ての方に厚く御礼申し上げます。

新潟生命歯学部4年 浜浦祭実行委員長 佐藤遥香



浜浦祭前夜祭



平成29年6月10日(土)浜浦祭、学食にてライブイベントが開催されました。今年度新しく入部した1年生、引退された先輩方も参加され、計10バンド、約40名の部員により、4時間に及ぶ熱いライブイベントとなりました。

新学期が始まり忙しい中、練習を重ね、バンドとして曲を完成させステージで披露するという難しさと達成感を感じることができた貴重な経験となりました。尚ライブの開催にあたり、協力してくださった先生方、浜浦祭実行委員の方々には厚く御礼申し上げます。

新潟生命歯学部 軽音楽部部長4年 宮本資久



平成29年度歯学会大会・総会開催さる

平成29年6月3日(土)午前11時より新潟生命歯学部講堂・アイヴイホールにてメインテーマは『薬物関連顎骨壊死を制するために』で、大会長 山口 晃先生(新潟病院院長)、準備委員長 戸谷収二先生(新潟病院口腔外科・地域歯科医療支援室長)のもと開催されました。まず学術研究奨励賞受賞講演が講堂で行われ、午後からの公開シンポジウムでは、基調講演とシンポジウム3題の講演がありました。今回、200名を超える会員と新潟生命歯学部の学生が参加し、特別開館された医の博物館・大学記念室も見学することができ、多くの企業展示もあり、内容が充実したとても有意義な一日となった大会でした。この大会は校友会・歯学会会員そして両学部学生が無料で参加聴講できますので、ぜひ参加してみてください。



国家試験体験記

私は今年の2月に行われた第110回歯科医師国家試験を受験し、今年の4月から日本歯科大学新潟病院で臨床研修医として働きはじめました。これから歯科医師国家試験を受験される皆様にも少しでもお力になれるよう、受験までの一年で大事ななど思ったことがいくつかあったので私の経験をもとにアドバイスできたらと思います。

まず大事なのが教科書の内容を把握し、分からない言葉を少なくすることだと思います。問題文に時折でてくる自分が把握していない言葉があると、もちろん問題の意図も見えてきません。また、同じ器具ですが名称が違うこともあります。当たり前のこ

とですが、教科書に書いてあることを基礎とし、応用は問題集でやるような形が、僕はいいと思いました。また来年の歯科医師国家試験から一般問題が増えるので、さらに基礎の力が求められるようになると思います。よって教科書は必ず読むようにしてください。

次に大事だと思ったことは、問題集でわからなかった問題の周辺知識をノートにまとめることです。中には解説を読んだだけで覚えたと思う人がいるかもしれませんが、わからなかったことを紙に書くことが重要で、それが束になり、やがて自分だけのオリジナルの教科書になります。その教科書は自分がわからなかった知識や語句が詰まっているので、テスト前にあれやこ

れや試行錯誤を重ねてやるよりも、そのままの教科書をやる方が知識の補填にもなりますし、何よりも大事な時間の短縮になります。まだノートを作ったことがない人は一度試してみてください。

ここまで具体的な勉強方法をお話ししましたが、勉強方法は人によって全く違います。一番大事なのは、自分に合った勉強法を早い段階で確立させ、それを信じ、進むだけです。今まで支えあった仲間たち、そして頑張ってきた自分を信頼し、国家試験合格を目指して頑張ってください。応援しています。



新潟病院
臨床研修歯科医
高島慶博
(106回)

こうゆう学生

継続することが力になる



日本歯科大学生命歯学部 6年
瀬戸利宣

2015年の夏、私はブラジルのサンパウロ州で開催された全米空手道選手権大会に、極真空手の日本代表選手として出場し、そして優勝しました。

北米・中米・南米の各地から、人種、性別、年齢、宗教もちがうが、ただひとつ、「空手を学んでいる」という共通点を持つ人々が一堂に集まっていた。

開会式。ブラジルの国旗が揚がり、ブラジル国歌が演奏された後、なんと日本の国旗掲揚と国歌演奏も行われたのです——日本のものだけが！しかし、それが当然であるという風に皆、日の丸と君が代に敬意を払ってくれていました。

大会と、現地で開催されたセミナーの日程を通して、日本とその文化は、それを享受する外国人たちにとって、とても尊いものであるということ、また、付随して私自身も、はるばる日本から来た日本人として、とても大切にされていることを肌で感じました。

大会会場では、はっきり申し上げますが、「えら

いとこにきてしまった」と思いました。

写真を見ていただければおわかりになると思いますが、当日は、日本歯科大学の銘を刻んだ道着で戦いました。せっかくだから、大学の看板を背負っていこうと日本を発つときに決めたのです。

私の勝ち負けはおろか、立ち居振る舞いまでも自分だけのものではなくなりました。ややもすれば日本と日歯大の威信が地に落ちると心の底から本気で思いました。

結果、パナマ人とコロンビア人を退けて私は優勝台に立つことができ、安堵しきりでありました。

さて、私が学んだことは、「続いていると機会、勝機はつかみ取れない」ということです。得た機会は二つ。

大会へ日本代表として参加すること、そして、優勝すること。

私は中学・高校の頃に全国2位と3位を経験し、その後は一般部の全日本選手権大会の選抜選手として大会に出場しています。修行歴は二十年以上。現在は三段位を取得し、後進の育成にも携わっています。

全米選手権大会へは自分自身で参加を希望して、所属団体での協議の結果、認可を得られました。これは、これまでの実績と経歴がなければ叶わなかったでしょう。

また、私が空手を始めてからこれまで、倦まず弛まずとは言えませんが、様々なハレやケもありながら、それでもずっと続けてきました。だからこそ優勝という結果が出せたのだと思っています。

何事においても、自分が躍進するための機会は数多、巡りくると思われます。

挑戦を続け、学ぶことをやめなければ、必ず誰かが評価してくれるでしょうし、コンペティションがあったときにも万全の力を発揮できることでしょう。

翻って、もし歩みを止めていたのならばまず機会に恵まれないでしょうし、チャンスが巡ってきたとしても容易に自分の手から零れ落ちてしまうことでしょう。

奇しくも武道には、行住坐臥いついかなるときでも戦いに応ずる、という考え方があります。私は今回、それが体現できたように思います。



第4回歯学会ウインターミーティング 演題募集のお知らせ

開催日時：平成29年12月9日(土)
午前10時30分～午後5時(予定)

開催場所：日本歯科大学生命歯学部
100周年記念館 九段ホール(B1F)
本館 メモリアルホール(1F)

※学生の皆様は無料で参加できます。
※演題申込書は歯学会ホームページからダウンロードできます。
※口頭・ポスター発表の詳細については、後日、申込者に連絡します。

校友会主催 学術フォーラム2018のお知らせ

開催日時：平成30年2月25日(日)
午前9時半頃～午後4時半頃まで

開催場所：日本歯科大学生命歯学部

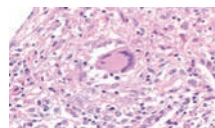
参加費：学生無料

毎年、全国の校友会員の先生方を対象に開催される講演会です。歯科臨床に直結した講演が盛り沢山です。校友のご父兄や友達と一緒に是非参加してください。詳細は次号で。

INFORMATION

KOYU Quiz

Q. 写真の細胞は何でしょうか？



正解は「歯髄の歯髄細胞」です。歯髄細胞は、歯髄の主要な細胞であり、歯の形成と維持に重要な役割を果たしています。この細胞は、歯髄の中心部に位置し、周囲の細胞と密接な連絡を有しています。

千葉県人会開催の報告

平成29年5月19日(金)午後6時半より、飯田橋ラム20階の『北海道』にて千葉県人会が開催されました。

今回、千葉県校友会会長の中村幸成先生(61回)をはじめとした千葉県校友会の斎藤俊夫先生(67回)、橋本博之先生(67回)、池田秀夫先生(68回)、高橋千明先生(69回)、加賀美毅樹先生(78回)、新井康仁先生(82回)と三代冬彦病院長を含めた大学内の先生方5名(平賀泰先生、宮坂孝弘先生、麻生真希先生、鈴木智之先生)、大学院生の澤野和生先生、三枝慶佑先生、研修医の樋口圭佑先生、新入生4名を含む在校生22名の総勢37名が集まりました。

3年生の中島寛也くんの司会・進行で始まり、中村千葉県校友会会長と三代附属病院院長のご挨拶の後、口腔インプラント診療科の平賀泰先生が乾杯の音頭をとり、賑やかに千葉県人会が始まりました。

会が始まると校友会の先生方が積極的に学生へ声を掛けてくださり、新入生もすぐに打ち解けることができ、在學生は学年の隔たりなく話をしたり、卒業生の先生方とは出身地のお話をしたり、先生方が在学されていた時代の大学や部活動の様子などを聞いたりと会話を花を咲かせておりました。

参加していただいた校友会の多くの先生方が実習で講義しており、とても心強く感じました。また卒業後は千葉県での開業や勤務を志す学生も多くおり、実際

に千葉県で地域の歯科医療に貢献されている先生方のお話をお聞きすることができ、大学での講義だけでは学ぶことのできない実際の地域医療の現状や私たちが将来あるべき歯科医師像を間近に感じることができ、大変有意義な時間を過ごすことができましたことを、在校生一同感謝しております。

そして、「君たちが千葉県に戻ってきた時に、何か困ったことがあったら校友会に声をかけてね。そして、助けてあげるからね」とおっしゃってくださった先生方の存在は、私たちにとって大変大きな心の支えとなることと思ひ、先生方との大変貴重な出会いに感激しております。

千葉県人会を通じて多くのご活躍されている先生方からお話を伺うことができ、卒業後も日々学ぶ姿勢の大切さや地域医療を行ううえで同じ地域で働く仲間との連携がいかに重要であるかということをご再認識する貴重な機会となりました。あつという間に時間が経ち閉会の辞を5年生の角田優子さんが行いました。

最後にご多忙にもかかわらず多くの校友会の先生方や大学内の先生方にお集まりいただき、このような有意義な千葉県人会を開催できたことを心より感謝いたします。先生方の益々のご活躍と千葉県人会の発展を心よりお祈り申し上げます。

日本歯科大学生命歯学部 4年 宮坂直樹

新編臨床歯周外科学
著者：長谷川明(本学名誉教授)

図書館からの
推薦図書

出版社：クインテッセンス出版
出版年：2001-10
請求記号：D3.12-H
登録番号：000119251 000119279
0000125288 000125542
000126899 000128208

昨年貸出が一番多かった図書です。毎年貸出ベスト3に入っていました。昨年は2位の倍以上の貸出がありました。わかりやすくレポートを書くときに参考になると5・6年生に人気があります。今年も貸出が多く6冊すべて貸出中のことが多いので、予約することをおすすめします。

図書館からのお知らせ

生命歯学部

- 図書館開館情報
土曜日開館：9月30日、12月2日・9日・16日
開館時間：10:00～17:00
21時迄開館(平日)：9月27日(水)～10月4日(水)
11月28日(火)～12月22日(金)
開館時間：9:00～21:00
夜間開館のみ：9月～11月の第2水曜日
開館時間：17:00～20:00
(9月13日・10月11日・11月8日)
*大学行事によって開館時間・開館日の変更がありますので、来館前には図書館ホームページでの確認をお願いいたします。
- 企画展示
9月：歯科医学と美術
10月：歯の進化
11月：患者さん向け歯科啓蒙書
12月：新書版紹介

新潟生命歯学部

- 図書館開館情報
10月～12月の開館時間に関しては特に変更は無し
平日 9:00～20:00
土曜日 10:00～17:00
年末年始の休館
12月28日(木)～1月4日(木)

1～3年



4～5年



診療室での物語

カルテ No.17 障害者歯科という道を選んで



杉山歯科医院勤務
杉山さおり
(85回)

子どもの頃から宿題は嫌いで、よくサボったりしたものです。名前とサボタージュをかけて真面目な友人には「サボちゃん」と素敵なあだ名をつけてもらいました(今では考えられないかも知れませんが、サボを履いて短パンとかジーンズで登院していました)。

しかしこのサボ体質が原動力となり、学生生活では宿題を減らすべく、必ず時間内に実習は終わらせ

たものです。現在の授業体制と国家試験対策では、ありえないことかと思いますが…。

そんな私なので、障害者歯科・小児歯科の認定医や専門医になったのは、一人で開業するのが、毎日宿題に追われているようで面倒だと、思っていたからかも知れません。ただ、小さい親戚が多かったので何かと、そういう子供たちを教えるのが好きだったのも事実でした。

障害者歯科をしていて、手応えを感じたことがいくつかあります。それは障害者歯科のスキルにより、発達障害の方たちが根治など、一般の大人でも大変な治療を受け入れてくれるようになり、歯科医として自信がついたことです。障害者への話しかけや作業レベルが上がり、食育の話題から「前歯で噛み切り奥歯で砕くのを意識するのよ!」という簡単な話だけで咀嚼効率も改善されました。結果として、障害者の方

ちの発達を本当に援助しているのだな、という充実感を覚えました。このようなことから、障害者の方に寄り添い見守り、障害者歯科を自分のライフワークとして現在まで続けてこられたのだと思います。

考えてみれば、これらの歯科医師としての日常生活を過分にご評価いただき、いつの間やら東京都校友会の広報や、会計の仕事させていただくようになったのだと思っています。学校歯科の仕事は、学会認定を継続するための課題もあり大変です。収入にも直結しません。

しかし、校友会を通じて学校歯科事業をはじめ、色々なところに顔を出しているおかげで、高齢者も含めハイリスクな患者様への取り組みという課題が実を結んだように思えます。

親と仕事をすると「お父様のファンです!」という患者様がいて、自分が認められていないという寂しい気持ちも抱きましたが、障害者歯

科を通じて内科的なハイリスクに対するニーズに応えられるようになり、やっと“若先生”にも目を向けて貰えるようにもなりました。

若い皆さんは、国民皆保険が続かないと思っているかも知れませんが、小児歯科や、障害者歯科をしている私もそう思います。マイクロスコープを用いた高度医療や継続的な歯周メンテナンスなど課題はつきません。でも、個人で開業しているだけでは世論は動かせません。乳幼児健診など様々な受託事業は先人の努力の賜物です。例えば、自発痛のない歯周病などを早期に発見し、それが成人病の予防に不可欠なことを国民に知らしめたのも、歯科医師会の力です。歯科医師になりたては、自分の治療に忙殺されてしまいます。しかし、その延長線上には、必ず「本当にやりたい治療」が待っています。その思いをかえすためにも、校友会の存在は大きいと思っています。

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で

